

みづの野の歌は事

和列三輪の市家屋某と同必在松の岡母子門人也年  
頃和方とた〜み哉〜の春

くまののこえ〜き禁の心〜

雲もけのふらみづの野の心

と泳瀬別と〜に師も甚く後さひ迎頂の香地る  
と称誉と巴も又泳得〜家ものにと人よ〜折を  
かると時をゆ〜。或時京師よ登心席よ冷泉為  
村のゆり〜詣りて自泳と〜し〜稱混吟〜

宮少候相〜昔成折つ〜ん地も歌よた〜次音  
りしと彼男人よ肝と消〜志〜く強〜かを附  
〜所深別も〜置るは亦もた〜り〜事〜也  
〜中〜し〜竹宣く〜も成〜〜〜  
清ひ

あつ雲  
くまののこえ〜ハ〜の心〜

雲もけのふらみづの野の心

と深別宮〜方泳〜〜此ハ志皆塔也白雲  
んも虚るか〜交〜の脈るり〜宣ひ〜しと彼男  
感慨〜〜退〜〜者〜た〜ハ華妻〜近



